

経営比較分析表（平成29年度決算）

岐阜県 神戸町

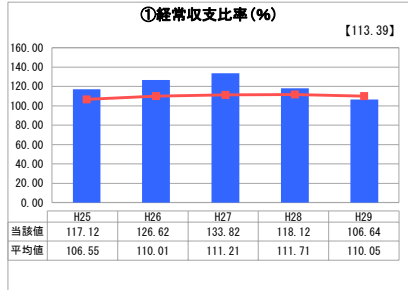
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	93.37	99.51	1,620	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
19,504	18.78	1,038.55
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
18,980	18.00	1,054.44

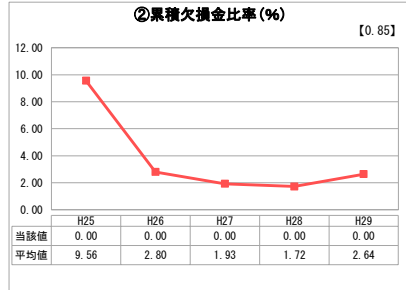
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

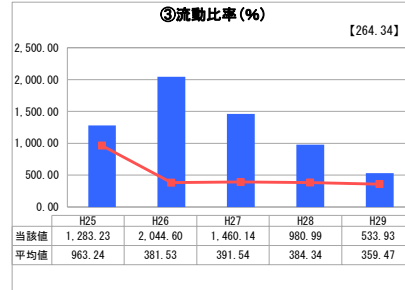
1. 経営の健全性・効率性



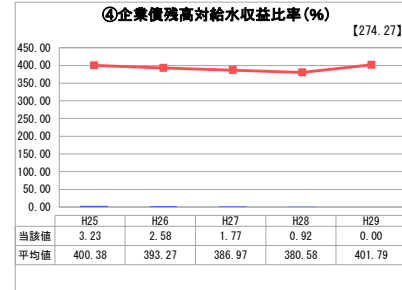
「経常損益」



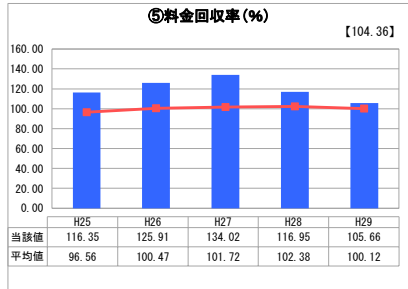
「累積欠損」



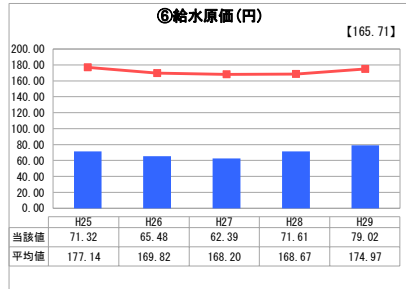
「支払能力」



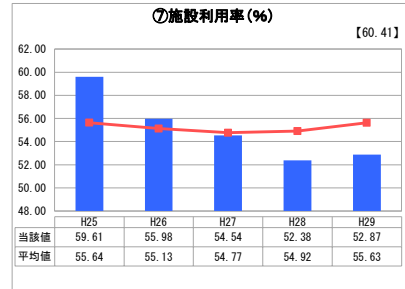
「債務残高」



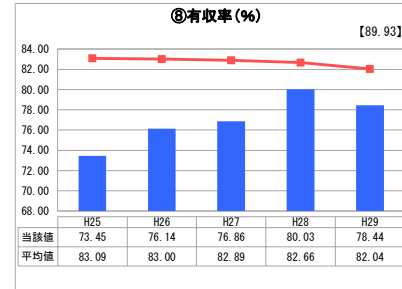
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

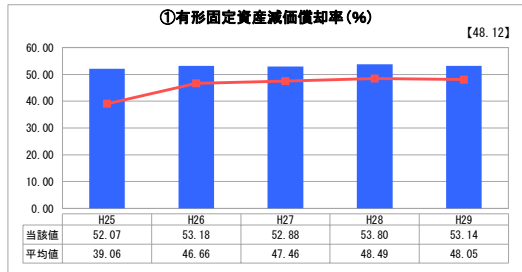


「施設の効率性」

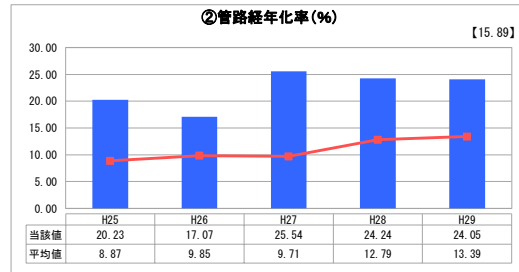


「供給した配水量の効率性」

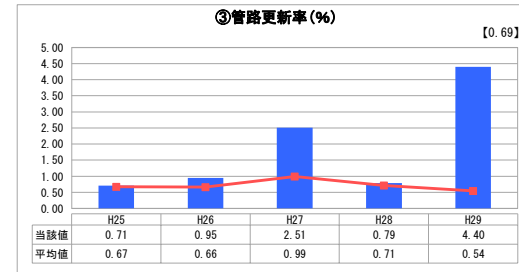
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は近年徐々に低下してきており、類似団体を下回った。現状では100%を超えているが、年々人口減少が進んでおり、給水収益の減少が見込まれるため、今後の動向に注意が必要である。累積欠損金は発生しておらず、料金回収率は100%を超えているが、年々低下してきており、必要な費用を料金収入でまかなえるよう収支バランスの維持に努める必要がある。流動比率も徐々に低下してきているが、現状では支払い能力に問題は無い。企業債の償還が終了し、現在は起債償還残高がない。水道水源として良質な地下水が得られるため、類似団体と比較して浄水処理費用が安価であり、給水原価は非常に低く抑えられている。ただし、給水原価は近年徐々に増加しており、給水量の減少にともなう施設利用率の低下が影響している。そのため、施設更新の際には必要容量や能力等の見直しを行う必要がある。有収率は全国平均や類似団体より低いが、漏水調査や管路更新を積極的に実施しているため、今後も引き続き有収率の改善に努めていく。

2. 老朽化の状況について

管路経年化率は近年積極的に管路更新を行っているため増加していない。ただし、類似団体と比較して高いため、今後も引き続き類似団体を上回るペースで管路更新を積極的に進めていく必要がある。有形固定資産減価償却率は施設の更新を必要に応じて進めているため増加しておらず、今後も維持していく必要がある。

全体総括

これまで累積欠損金も無く、企業債の償還も終了して健全な経営を行っている。しかし、年々人口減少が進み、給水収益が減少しているため、料金回収率が100%に近づいてきている。必要経費を給水収益でまかなえるよう、収支バランスを保つ必要があり、今後支出の削減と収入の増加を検討していく予定である。管路経年化率は類似団体と比較して高く、今後老朽化が年々進んでいくため、引き続き管路更新を積極的に行い、有収率が低下しないようにしていく。施設利用率は給水量が減少しているため徐々に低下傾向にある。老朽化した施設の更新を行う際には、将来需要の予測を踏まえ適正な規模の施設・設備にしていこうと予定している。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。